

進路ニュース

平成26年11月18日

鳥取県立白兔養護学校

進路担当

平成26年度 第6号

朝晩の冷え込みが厳しくなり、冬の足音が聞こえてきます。進路ニュースでは、高等部1、2年生の産業現場等における実習、障がい者就職面接会、キャリア教育についてお知らせします。

高等部1年生産業現場等における実習

高等部に入学して初めての「産業現場等における実習」を行いました。慣れない職場で一日5～6時間、10日間連続して働きました。不安を持ちながらのスタートでしたが、ほとんどの生徒が休むことなく働き続けることができました。きっと、大きな自信になったことと思います。報告会でも、一人一人が実習前とは見違えるほど落ち着いた態度で、してきたことや学んできたこと、そして今後の課題を発表しました。その姿を見ていて、本当に嬉しくなりました。

さて、報告会の最後には、それぞれの実習の様子を写真で見合い、「つづく・・・。」と締めくくりました。2年生の実習へと続くのはもちろんですが、そのことを伝えたかったのではありません。そうです、これからの日々の学校生活に続くのです。学んできたことを、ぜひ、日々の学校生活で実践してほしいと思っています。

(文責 中谷 一朗)

～実習内容の一部を紹介します～

フェリース	ぱれっと三田	Studio-E
 ・農作業（にんにく、なた豆、しいたけ） ・木工作业	 ・段ボール解体 ・アルミ缶つぶし ・シールデザイン	 ・パソコン業務 ・DVDジャケット作成補助 ・撮影補助
かめのパン屋さん	フレンドシップ	松の聖母学園通所更生部
 ・製品シール貼り ・生地の手量 ・袋詰め	 ・リングはめ ・野菜袋詰め ・製品の組立	 ・タオルたたみ ・段ボール解体 ・農作業

障がい者就職面接会

10月7日(火)、白兔会館を会場に障がい者就職面接会が行われました。本校からは企業就労を目指す高等部3年の生徒が参加しました。事前に挨拶や姿勢など基本的な事の学習を含め、模擬面接で実践的な練習をしました。また自己紹介シートの記入を通して、自分の長所や志望動機を考え、就労への意欲を高めて面接に挑みました。当日は20以上の企業がブースを構え、参加者は希望する企業の面接を並んで待つという、一般的な就職面接会の形式で行われました。他校生や一般の方も多く参加されており、混雑した中で面接会が進みましたが、練習した成果を出して面接を受け、待ち時間も落ち着いて過ごしました。緊張の中、懸命に挑む姿に成長と意欲を感じた面接会でした。

(文責 秋吉 久美子)

高等部2年生産業現場等における実習

今回で3回目の産業現場等における実習となりました。生徒たちには実習前の結団式で、今回の実習の持つ意味や大切さについて進路指導主事より説明がなされました。生徒たちはそのことを受けて、一人一人が自分の目標を意識しながら前向きな態度で取り組み、10日間の実習を終えることができました。実習を終えた生徒たちの表情からは、満足感と達成感が感じられました。おそらく実習期間中は、普段の学校生活とは異なり、様々なことが要求されたり、学校では学べないことが学べたりと社会で求められることを知るよい機会になったのではないかと思います。実習先の方々も、実習生の特性を見極めながら丁寧に手厚く指導してくださいました。そんな中、「職業種への適性」、「あいさつや返事の声の大きさ」、「仕事に対する集中力」など個々に応じて課題が見えてきた面もあります。今後はその課題解決に向けて一層努力が必要となってくると思われますが、3年生での実習につなげてほしいと思います。(文責 酒井 博文)

☆ キャリア教育について ☆

「キャリア教育」という言葉が高校だけでなく、小学校、中学校、特別支援学校でも言われ始めて、もう何年もたちます。本校でも子どもたちが社会的・職業的自立に向け、キャリア発達を促す教育に取り組んでいます。本校のキャリア教育の目標と取り組んでいくうえでのポイントを紹介します。

【本校のキャリア教育の目標】

○自分の意思で生き方を考えたり、進路を選択したりする能力を身につける。

(自己理解、自己選択、自己実現、自己責任)

○社会参加に必要な知識、技能、態度を身につける。

(コミュニケーション、作業態度、人間関係の結び方)

【キャリア教育を進めていくうえでのポイント】

○ライフキャリアの視点

「子ども」「学生」「余暇人」をどう生きるかを大切にしていく。

○「できる」「できない」ではなく、課題にどうむかうのか？スキルでなく、意欲を育てる。

○本人の願い(夢や希望)を重視していく。

○自己肯定感を高めていく。



以上のことをまとめると、キャリア教育は、夢・希望・憧れを持ってそれぞれがなりたい自分に近づき、自分らしく生きていくことを目指す中で、本人の努力に周りも支援していく過程ではないでしょうか。そして、その過程で培われた力が「生きる力」になるものと思い、日々子どもたちに接していきたいと考えています。

注：キャリアは、職業経歴や仕事そのものを意味する「ワークキャリア」と、様々な生活場面で個人が果たす役割を踏まえた働き方や生き方を指す「ライフキャリア」に大別されます。本校では「ライフキャリア」の視点から一人一人のキャリアを総括的に捉え支援していきたいと考えます。障がいの特性や発達段階に応じて生きる力を育めるように取り組んでいます。(文責 森 茂雄)